

【キャリア教育センター】令和7年度 FD 活動の「年間報告」

1. 学部独自の FD 活動についての報告

(1) 公開授業・ワークショップ

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

公開授業

- ・ 科 目：キャリア実習(インターンシップ実践型)
- ・ 担当教員：松高 政、穂崎 良典
- ・ 実施日時：7月5日(土) 2限、3限
- ・ 実施場所：SR308 教室、SR304 教室
- ・ 参加人数：1名(民間企業関係者)
- ・ 概 要：受講生が「インターンシップ学習計画書」をそれぞれの受入企業・団体に発表し、発表を受けた企業担当者が受入学生に向けてフィードバック、インターンシップ前の指導を行う授業を公開した。

(2) その他研修会等

※(1)以外の学部 FD として実施する研修会が対象(人権研修会を除く)

①「O／OCF－PBL」担当学会議

- ・ 概 要：科目の各授業回の運営方法の共有、授業の振り返り等、科目独自のFD活動となった。
- ・ 実 施 日：5月19日(月) 11:00～11:30, 7月7日(月) 11:05～12:15, 8月28日(木) 11:00～11:55, 12月15日(月) 11:00～11:42, 1月19日(月) 11:00～11:30、
- ・ 参加人数：23名(教員21名、職員2名)

②「キャリア実習」担当学会議

- ・ 概 要：科目の各授業回の運営方法の共有、授業の振り返り等、科目独自のFD活動となった。
- ・ 実 施 日：4月16日(水) 9:30～10:30, 6月4日(水) 9:30～10:30, 9月11日(木) 14:00～15:00, 10月22日(水) 9:30～10:30
- ・ 参加人数：12名(教員9名、職員3名)

③「アスリートインターンシップ」担当学会議

- ・ 概 要：科目の学生募集に関する意見交換、科目の各授業回の運営方法の共有、授業の振り返り等、科目独自のFD活動となった。
- ・ 実 施 日：10月28日(火) 10:45～11:45, 11月19日(水) 9:00～10:00、1月19日(月) 12:20～13:20、2月25日(水) 10:00～11:00
- ・ 参加人数：8名(教員3名、職員5名)

④「理工系スタートアップ・キャリアデザイン」担当学会議

- ・ 概 要：企業訪問報告会についての確認及び共有、授業の振り返り等、科目独自のFD活動となった。
- ・ 実 施 日：8月27日(水) 10:00～10:15、1月8日(木) 10:30～11:00
- ・ 参加人数：4名(教員3名、職員1名)

2. 総括(今年度の学部 FD を通して得られた気づきや見つかった課題等)

キャリア教育センターが開講する産学協働教育科目群については、例年通り、全ての科目で学習成果実感調査を実施した。全体の回答率は、昨年度の44.1%から32.3%へと約10ポイント低下し、一昨年のレベルに戻ってしまった。

回答の傾向としては、例年通り全ての科目の全ての質問項目で良好で、全学平均よりも高い値が出ている。とりわけ授業の到達目標に関する項目（設問「あなたはこの科目を受けて、教員から伝えられた「授業の到達目標」にどの程度到達できたと思いますか？シラバス等を参考にしてお答えください。」）が、全学平均よりも顕著に高かった。引き続き、次年度も同様の成果を得たい。

産学協働教育科目群を通して学生に身につけてもらいたい能力を測定するキャリア教育センター独自の設問（8つの質問項目）に関しても、例年通り良好な結果が出ていて、全ての質問項目で平均値が4.0を上回っている。とりわけ「他の学生と協力して物事に取り組めるようになった」という項目に関する平均値が4.37で最も高く、授業の中でペアワークやグループワークが多用されている産学協働教育科目の特色が表れているのではないかと考えられる。

自由記述に関しては、回答数は少なかったが、ふだん接点がない他学部生も含めたグループワークを経験できることを高く評価する記述が、比較的よくみられた。グループワークを多用するキャリア形成支援教育の特色を裏付けるような内容だと言えるだろう。また、例年通り、自分の強みや弱み知ることができたとの記述も、比較的よくみられた。キャリア形成支援教育の重要な目標の一つとなる自己発見・自己分析ができるようになったことを示す記述となっている。その他に、「より意欲のある人達だけにしてほしいと感じた」といった意見や「早々に外部でインターンを探して挑戦しているような意識の高い学生を取り込むことが出来れば、クラス単位で学習の質やレベルがぐっと上がると思う。」といった興味深い意見が寄せられており、これまであまり考えたことはなかったが、たとえばインターンの経験者等を集めたトップアップ型のクラスを進路就職センターと連携しつつ開講するといったような案も、もしかしたらありえるのではないかと考えさせられた。

なお、経済産業省・文部科学省・厚生労働省による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」を受けて本学で令和5年度に再編されたインターンシップ・キャリア実習系の諸科目（令和6年度・7年度のFD活動における重点テーマ）に関しては、平均値でみると、昨年に引き続きどの質問項目に関しても全学平均だけでなく産学協働教育科目群の平均を上回る良好な結果が出ている。ただし、回答率が低い科目（何事にも熱心に取り組んでいた受講生のみが回答していると推測される）ほど、高い値が出ている点には注意が必要であると考えられる。

3. 次年度に向けての取り組み

令和7年度に実施した学習成果実感調査の結果については、担当教員にフィードバックし、次年度の授業改善に役立てる。次年度以降も全ての科目において学習成果実感調査を実施して授業改善につなげるとともに、キャリア形成支援教育の発展を今後どのように図っていくのか検討する際の資料としたい。

※この内容は当該年度終了後、本学におけるFD活動の一環として、本学HPに掲載します。